



どうわもんだい まった し わたし けっこん
同和問題を全く知らない私が、結婚して
どうわちく す ねんまえ
同和地区に住むことになったのは27年前の
ことす。なに し
何も知らないということで、マイ
ナスのイメージも持っていなかった私は、気
がる こえ やさ ちく みな
軽に声をかけ、優しくしてくださる地区の皆
さんに、「この人は接しやすく、優しい人
ひと せつ やさ ひと
が多いところだな」と思ったのが第一印象
おお おも だいいちいんしやう
でした。

おも まいにち せい
そう思っていたのですが、毎日そこで生
かつ いろいろ こと み
活をしていくうちに色々な事が見えてきたり、
しゅうへんちいき ひと き いっぽうてき はなし まど
周辺地域の人から聞いた一方的な話に惑わ
ちく ひと へんけん も ま
され、地区の人たちに偏見を持ったり、間
ちが みかた かんが かつ
違った見方や考え方をするようになってしま
いました。

どうわもんだい わたし かんけい
また、同和問題は私にはあまり関係ない
ことだとも思っていました。

へいせい ねん りんぽかんしよくいん いち どうわ
平成8年に隣保館職員となり、一から同和
もんだい まな しよくいん ちく かつ
問題を学びました。職員として地区の方た
かか なか はなし き
ちと関わっていく中で、いろいろな話を聞か
せていただき、たくさんの事を教えてもら
いました。私の同和問題の捉え方は間違っ
わたくし どうわもんだい とら かつ まちが
ており、私自身差別者だったということと思
わたくししんさべつしや おも
い知らされました。

ちく かつ さべつ たいけん き
地区の方たちの差別の体験を聞かせても
なに し さべつ
らい、何も知らないことが差別につながるこ
まな たいけん き けき ぶ
とを学び、また、体験を聞けば聞くほど部

らくさべつ たい いか いきどお かん
落差別に対して怒りや憤りを感じるようにな
りました。そこから少しずつ私の考え方が
か
変わっていきました。

わたし ふたり むすめ
また、私には二人の娘がいますが、その
たちば おも とき さき じんせい い
立場を思う時、先の人生、そこでずっと生
じぶん かんが とき どうわ
きていく自分というものを考えた時、同和
もんだい ほんき
問題はひとごとからわがことになり、本気で
どうわもんだい む あ
同和問題と向き合うようになりました。でも、
とき こ つた
その時はまだわが子に伝えるということなど
かんが
考えてもいませんでした。

とき むすめ ちく こわ
そんな時、娘が「あなたの地区は恐いと
い できごと
ころ」と言われる出来事がありました。ま
のこ さべつ げんじつ し う
だ残る差別の現実を知り、ショックを受けま
した。そのことをきっかけに子どもの立場

じかく かんが
の自覚について考えざるをえなくなりました。
どうりやう ちく ほごしや そうだん おな
同僚や地区の保護者に相談すると、みな同
なや も
じ悩みを持っているということがわかりました。

こ みらい
また、子どもたちの未来のために、きちん
たちば つ さべつ ま つよ にんげん
と立場を告げ、差別に負けない強い人間に
そだ おも
育てたいと思っていることもわかりました。

おも おも とき ほごしや
そう思いながらも、その時の保護者はど
うしていいかわからず自信がないという保護
しや どうわもんだいがくしゅう ひつようせい
者ばかりでした。同和問題学習の必要性を
かん ほごしや べんきやうかい はじ
感じ、保護者の勉強会を始めました。まず
おや まな きやうつう にんしき も たいせつ
親が学び、共通の認識を持つことが大切で
おも おも こ かよ
あると思いました。子どもたちが通ってい

がっこう せんせいがた おも つた いっしょ
る学校の先生方にもこの思いを伝え、一緒
まな かんが
に学び考えてもらいました。

ねん がつ こ つた
そして1998年10月、わが子へ伝えること
もくてき ほたる かい た あ
を目的とした、「蛍の会」を立ち上げました。

ほたる かい ほごしやどうし せんせい ほ
この「蛍の会」で保護者同士、先生と保
ごしや にんげんかんけい ふか なん い あ
護者の人間関係が深まり、何でも言い合える、
とてもいい関係が出来ました。また、会を
かんけい でき かい
かさ 重ねるごとに保護者は自分をさらけ出すこと
つよ
で強くなっていきました。そのうち、みん
ながそれぞれわが子へ伝えることができま
わたくし むすめ つた
した。私も娘に伝えました。みんながひと
とく ほたる かい
つになって取り組んできた「蛍の会」はと
おお せいか おも
ても大きな成果があったと思っています。

せい か
もうひとつ成果があったことがあります。
わたくし ふたり むすめ つ あ あいて ひとり
私の二人の娘は付き合っている相手（一人
けっこん じぶん
は結婚しましたが）に自分のことをきちんと
つた
伝えることができたことです。

とお むすめ たちば つ
このことを通してふたりの娘は立場を告げ
たことを前向きに受け止め、そのこととき
まえむ う と
ちんと向き合ってくれたのだと、とてもうれ
おも なや わたくし
しく思いました。また、悩みながらも私
どうわもんだい かいけつ いっしやうけんめい
が同和問題解決のために一生懸命やってき
まちが おも どう
たことは間違っていなかったのだと思うと同
じ わたくし すがた み おも
時に、私の姿を見てくれていたのだと思い、
ほんとう がんば おも
本当に頑張ってたよかったと思っています。

わたくし どうわちくが い どうわちく りやうほう せいかつ
私は同和地区外と同和地区と両方で生活

み たちば ちが き
してきたわけですが、見る立場が違っていると気
ちが
づきも違ふということがわかりました。この
にちじやうせいかつ なか
ようなことは日常生活の中でも、たくさんあ
るのではないのでしょうか。自分だけの考え
はんだん ひと
だけで判断しないで、いろいろな人たちの
こえ みみ かつむ たちば してん
声に耳を傾け、さまざまな立場、視点から
かんが たいせつ おも わたくし
考えていくことが大切だと思ひます。私は、
どうわちく す どうわもんだい む あ
同和地区に住み、同和問題と向き合いなが
せいかつ じぶん い かつ む
ら生活してきましたが、自分の生き方と向き
あ おも どうわもんだい
合ってきたようにも思ひます。同和問題と
む あ わたくし い かつ か
向き合えたから私の生き方が変わってきた
かんが おも じんけん たい
のだと考えています。思いやりや人権の大
せつ つよ かん さべつ がわ た
切さを強く感じとれたのも差別される側に立
どうわちく せいかつ
ったときで、同和地区で生活したからこそわ
おも どうわもんだい であ
かったことだと思ひます。同和問題と出会
わたくし さべつ にんげん
わなければ私はずっと差別をする人間のま
まだったかもしれません。

どうわもんだい であ ほんとう
また、同和問題と出会ったことで、本当
かた であ おな
にたくさんの方たちに出会うことができ、同
おも も なかま
じ思いを持ったたくさんの仲間ができました。
いま わたくし ざいさん
それが今、私の財産になっています。

さべつ げんじつ まな きちやう たい
そして、差別の現実から学んだ貴重な体
けん おお ひと つた いちにち はや どうわもんだい
験を多くの人に伝え、一日も早く同和問題
を はじめとするあらゆる差別の解消に向けて、
さべつ かいしやう む
これからも活動を続けていきたいと思ひ
かつどう つづ おも
ています。